

あこがれ

牛久保小・5 西垣 芽泉

「なんかちがう気がするんだよね…」

わたしは絵が苦手だった

かいても変になってしまいうから

いつの間にか自分のかく絵に

自信がなくなっていた

どうしてもあこがれの人のようになりたくて
毎日ががんばっていた

あこがれの人

それはお姉ちゃん

お姉ちゃんはすぐ絵が上手だから

わたしも上手になりたい

そう思い練習を始めた

「ここがうまくかけないんだけど…」

「ここは分けるとかきやすくなるよ」

わからないところを聞くわたしに

あこがれの人のはわかりやすく教えてくれる

言われた通りかくと上手にかけた

わたしはびつくりした

こんなにうまくかけるなんて

わたしのために教えてくれて

とてもやさしいけれど

あこがれの人にはこんな一面もある

「この漢字なんだつけ 教えてお姉ちゃん」

「なんで教えないといけないの」

「いやなら教えなくていいよ」

いつもこんな風にけんかになる

けれど最終的にヒントを教えてくれる

すぐに教えてくれれば

けんかにならないのに

そう思ってしまうけれど

どんなにいやがっても

わたしのためにいろいろ教えてくれる

お姉ちゃん ありがとう